

## 百周年記念事業に思う

窪田 正利（高校教諭）

（高校33回）伊那市在住

私の 高校生時代、弥生に自習室はありませんでした。

3年の高校総体が終わり（私は弓道部で頑張っていました。）

本格的な受験生になっても、学校内に「受験勉強」という雰囲気は希薄で、放課後に上伊那図書館に通うか、休日の昼はひたすら寝て 涼しい真夜中によく机に向かうという生活だった記憶があります。

昨年まで母校に教員として 9年間お世話になりましたが、今の高校生が、自宅や自室では勉強できないという何とも情けない現実と、自習室とは名ばかりの普通教室で、30年前の自分と変わらぬ姿を見ながら、せめて他校と同じ自習環境を整えて、夢をかなえさせてあげたいと思うばかりでした。

この度、百周年記念事業として 自習室に活用できる「多目的教室の整備」が、ようやく 母校にも計画されますことに、実行委員の一員としてだけでなく、進路指導担当の立場からも安堵しています。

今後は、活動し始めた弥生ヶ丘同窓会が、世代を超えて 卒業生が集える コミュニティセンターに 徐々に整備されることを願っています。

また、将来的には、文化、教育、情報の発信基地や 豊富な人材バンクとして地域に貢献できるような事業を期待しています。